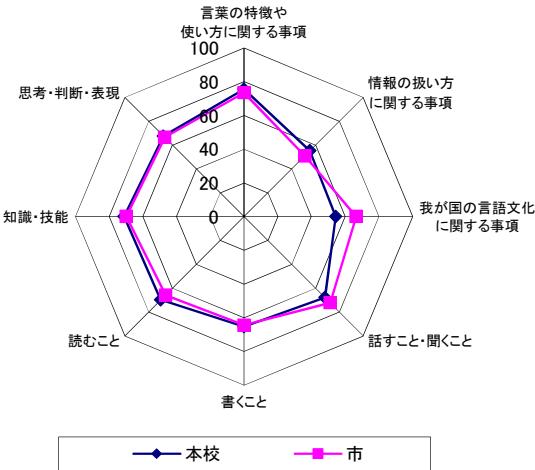


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.6	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	55.3	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	54.4	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	67.8	72.3	73.7
	書くこと	65.2	64.3	66.6
	読むこと	69.9	65.8	64.9
観点別	知識・技能	71.2	69.8	70.8
	思考・判断・表現	67.6	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

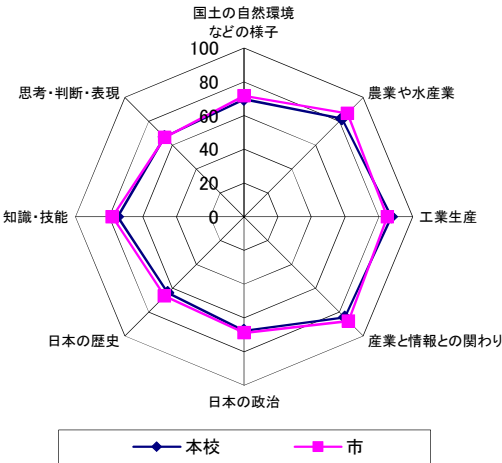
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市と比較して2ポイントほど高い。 ○第6学年配当漢字の、漢字を書く問題の正答率は、全ての市の平均を上回った。漢字を読む問題の正答率は下回っているところもあるが、基本的な漢字の読み書きは定着している。 ○文と文との接続の関係についての問題では、正答率が市の平均を10ポイントほど上回った。 ●敬語の問題では、市の平均を上回っているものの、正答率が低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、基本的な言語についての学習、既習事項の復習を行い、基礎基本の定着に努めていく。また、個人用パソコンやAIドリルも活用して習熟を図る。 ・習った漢字を日常的に使うように指導していく。 ・敬語については、敬語を使う相手が誰なのかを明確にする学習を繰り返し行い、尊敬語と謙譲語の区別ができるようにしていく。また、各学級の日常生活での会話等でも機を捉えて指導する。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市と比較して4ポイントほど高い。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、全ての問題で市の平均を上回った。	・資料から必要な情報を抜き取り活用する活動を様々な教科で取り入れることで、情報の取捨選択をし、整理する能力を身に付けられるよう、継続して指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市と比較して12ポイントほど低い。 ●和語・漢語・外来語についての理解に課題が見られる。	・国語辞典や漢字辞典などを活用し、語句の由来について興味・関心を深められるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比較して5ポイントほど低い。 ○話のだいたいの内容はおおむね捉えられている。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えて、聞くことに課題が見られる。	・話の要点が何かを捉えられるよう、目的意識をもって話を聞くことの大切さを継続して指導していく。 ・国語だけでなく、他の教科や学級活動など様々な場面で、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う機会を積極的に設けて指導していく。 ・話を聞いて内容を捉え、大事なことをメモにとり、条件に合わせて要点をまとめられるような活動を取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、市と比較してやや高い。 ○事実を基に、指定された長さで自分の意見を理由を述べながら明確にして書くことができている。 ●予想される反論とそれに対する意見を書けていない。	・資料から必要な情報を読み取り、その内容を自分の言葉で要約する活動を行う。また、読み取った内容から考えたことを表現する活動を、様々な教科で取り入れていく。 ・作文の学習では、字数や段落構成の条件を与えながら、書く練習を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市と比較して4ポイントほど高い。 ○説明文の読み取りにおいては、市の平均をほぼ上回っている。叙述を基に文章の内容を捉えることができている。 ●登場人物の心情について、描写を基に捉えることに課題が見られる。	・物語の読解では、登場人物の心情が表れている描写を的確に捉えられるように継続して指導していく。 ・引き続き、読書活動を励行し、読解力を高めるようにしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.7	71.6	69.6
	農業や水産業	82.2	86.7	83.7
	工業生産	87.4	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	84.5	87.7	77.4
	日本の政治	67.7	68.9	71.7
	日本の歴史	64.0	66.7	66.3
観点別	知識・技能	74.9	78.0	76.7
	思考・判断・表現	66.8	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

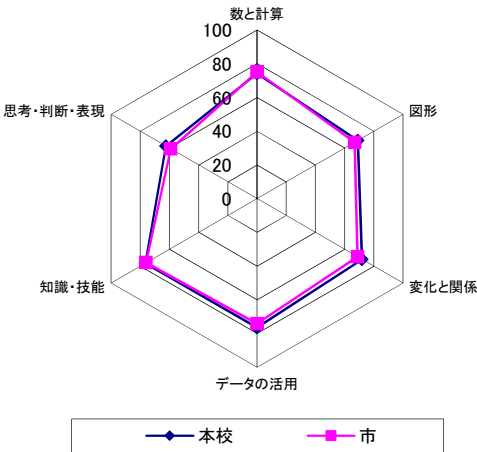
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○オーストラリアの場所と国旗を問う問題の正答率は、市の平均正答率とほぼ同じだった。 ●海洋名について理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を8ポイント下回っている。折に触れて復習を行う必要があると考えられる。 ●主な地形や湖について理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を5ポイント下回っている。こちらも復習を行う必要があると考えられる。	・白地図にまとめたり、機会を捉えて復習を行う。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○米の生産が盛んな地域を問う問題の正答率が、2.6ポイント上回っている。 ●米の生産工程の理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を12.6ポイント下回っている。工程についてまとめたり、動画資料を活用したりしてさらなる定着を図る必要があると考えられる。 ●水産業の流通の工夫を問う問題の正答率が、市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。知識だけでなく、当事者の工夫や自分の生活を結びつけて表現させる活動を取り入れる必要があると考える。	・学習内容を総合して表現する活動を取り入れることで、知識を定着することができるようにする。 ・周辺に田んぼがないため、動画資料等を活用し、理解を深めることができるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○自動車生産に関する問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●工業製品の分類に関する問題の正答率が、市の平均正答率を2.5ポイント下回っている。用語の理解を確認する必要があると考えられる。 ○工業の特色を資料をもとに表現する問題の正答率が、市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。	・引き続き、動画資料や出前授業などを通して、理解を深めることができるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○メディアの特徴の理解を問う問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●情報の発信と受信の注意点について問う問題の正答率が、市の平均正答率を6.7ポイント下回っている。文章で表現させる活動を取り入れていく必要があると考える。	・引き続き、情報機器利用の日常的指導、動画資料などを通して理解を深め、文章でまとめたり表現させたりすることで、理解を深めることができるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●天皇の地位についての理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を6.1ポイント下回っている。折に触れて復習を行う必要があると考えられる。 ●国民の義務についての理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。復習を行い確認する必要がある。 ○内閣についての理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を4.2ポイント上回っていたが、正答率は半分以上と低かった。 ●国民と国会と内閣の関係についての理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を1.6ポイント下回っている。資料から情報を収集し、図表などに整理する活動を取り入れていく必要がある。	・児童の生活と結び付けてまとめたり、表現させたりすることで、理解を深めることができるようにする。 ・知識の定着とともに、資料の読み取りや様々なまとめ方を経験させることで、思考力・表現力をさらに高めることができるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○鉄砲の伝来についてを問う問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●鉄剣の文字を問う問題の正答率が、市の平均正答率を14.3ポイント下回っている。確認・復習を行う必要がある。 ●元寇についての理解をもとに、文章で表現する問題の正答率が、市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。文章で表現させる活動を取り入れていく必要があると考える。	・学習内容を総合して表現する活動を取り入れることで、知識の定着及び多面的・多角的に社会的事象を考えることができるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.2	75.1	75.8
	図形	68.9	66.8	68.3
	変化と関係	71.9	68.8	65.0
	データの活用	76.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	76.5	76.1	75.8
	思考・判断・表現	62.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

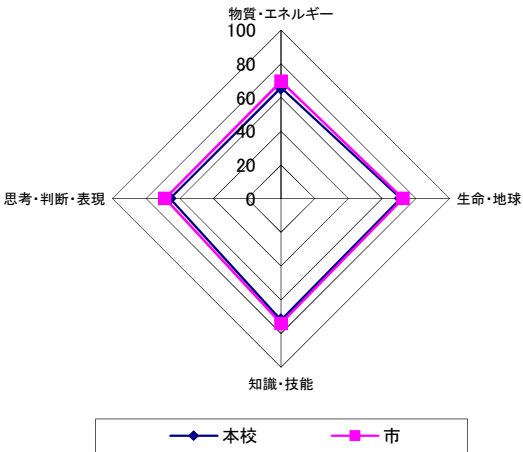
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市と比較して0.9%低い ○2つの文字をつかった式のうち、一方の文字の値からもう一方の値を求める問題においては、平均正答率が市の平均を大きく上回っている。 ●小数数第一位同士の除法の計算においては、市の平均正答率を10ポイント近く下回っている。また、真分数同士のたし算の計算においても、市の平均正答率よりも若干低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き基本的な計算の力を身に付けられるよう、朝の学習、少人数指導等の時間を活用して、継続して指導していく。 ・計算スキルやAIドリルなどを活用し、繰り返して計算練習に取り組み、基本的な技能の習得を図る。
図形	平均正答率は、市と比較して2ポイントほど高い。 ○正六角形の作図方法から、円の中心のまわりにできる角の大きさを求める問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。また、三角形の内角の和を利用して外角を求める問題においても、市の正答率から10ポイント以上上回っている。 ●高さが図形の外にある三角形の面積を求める問題では、市の平均正答率よりも下回っている。	・基本的な問題に加え、様々な応用問題に取り組む機会を増やしていく、図形の捉え方の幅を広げる。 ・公式を単純に覚えさせるだけではなく、公式の導き方も理解できるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は、市と比較して3ポイントほど高い。 ○速さと道のりから、時間を求める問題では、市の平均正答率を6.6ポイント上回っている。 ●円グラフの読み取りの問題では、市の平均正答率よりも若干下回っている。	・問題に答えるときは、グラフと照らし合わせたり文章をじっくり読んだりしながら、問題の意図を正しく理解して、課題に取り組もうとする力を育てていく。 ・答えの見積を立てながら、課題に取り組む機会を設けていく。
データの活用	平均正答率は、市と比較して2ポイントほど高い。 ○平均の数値を利用し、予想される道のりの求め方を説明する問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●平均を求めるための値に0が含まれている問題では、市の平均正答率を4ポイントほど下回っている。	・社会科等他教科の学習資料や新聞などを活用して繰り返しデータの見方を確認することで理解を深め、活用する力を育てる。 ・委員会活動など日常生活と関連させながら、データの活用の有用性や必要性についても理解を深めるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.7	69.5	65.2
	生命・地球	71.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	72.1	74.0	70.7
	思考・判断・表現	65.8	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○気体の性質では、市の平均正答率をやや下回っているが、全国平均は上回っていた。 ●電流のはたらきでは、電流の向きと電磁石の極の関係が十分に理解できていなかった。	・実際に学習した内容と関連付けながら、問題を読み取る力を身に付けさせる。 ・実験するだけで終わらず、まとめたり分析したりすることで、理解の定着を図る。 ・実験を通して児童たちが身近な自然現象を体感できるように、実験機会をしっかりと確保していく。
生命・地球	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○流れる水のはたらきでは、市の平均正答率を大幅に上回っていた。 ●動物のからだのつくりとはたらきにおいて、臓器のはたらきについての理解度が低い。	・児童の理解の充実を図るために、観察・実験などを行うとともに、映像や模型、ICT機器を活用していく。 ・日常生活や他教科と関連付けながら、理解を深め、考える力をつける。

宇都宮市立宮の原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	・3年生以上への質問で、授業が分かると答えた割合がすべての学年で市の平均よりも高かった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー＆振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	・3年生以上の家庭学習の時間について、3年生・4年生・6年生で市の目標時間を上回る時間に取り組んでいる児童が多かった。 ・3～6年生の質問「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した児童の割合が、どの学年も市の平均より高くなった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	互いに認め高め合い、進んで学ぶ児童の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	・「グループなどでの話し合いに自分から積極的に参加していますか」の質問に対する肯定割合は2年生以上の学年で市の平均を上回った。 ・3年生以上の質問「自分の考えを理由・根拠をあげながら話すことができる」の質問に対する肯定割合は、3年生・4年生・5年生で市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・引き続き、具体的なめあての提示と分かる授業を心掛け、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、ICTも上手に活用しながら、主体的に学ぶ児童の育成を図っていく。

・家庭学習については、強化週間等の取組を継続しながら、家庭とも連携し、更なる内容の充実やよりよいノート作りにも取り組んでいけるようにする。

・話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習活動を工夫し、ものごとをいろいろな視点や立場から考えたり、じっくり自分の考えを自分の言葉でまとめたりする力を育てていく。

・発展的・応用的な問題に対応する力を伸ばすために、発展的な応用問題を積極的に取り上げたり、習熟度別学習や朝の学習ステップアップの機会を生かして、児童が意欲的に発展的な問題に取り組めるような機会を増やしたりしていく。また、記述問題に対応できる力が身に付くよう、まとめやふりかえりの場面等で日頃から書くことを意識させ、思考力・表現力の育成に努めていく。